

令和八年八月 晋賢光明

華嚴宗 晋賢光明寺

今月の法話

一、「今、私たちがすべきこと」 二、「無縁仏と幽霊」

一、私たちにとって今、一番すべきことは何か？

一年が早く感じるものです。時代が進むとともに、自身の年齢も積み重なっていき、気がつけば五年、十年とあっという間に過ぎていきます。まさに諸行無常であり、人は必ず死にゆく運命にあります。この短い時間の中で、私たちは何のために生まれてきたのでしょうか。

十代、二十代の頃は何にでも興味があり、先のことよりも、自分のやりたいこと、やれることに挑戦したり、また自由に生きる人も多い時期です。三十代、四十代は、自分の生活を確立し、社会にも貢献できるようになる時期。五十代に入ると、少しずつ自身のことが見えるようになります。一方で身体的な病気を発症したり、さまざまなトラブルも多くなる頃でもあります。自身の心と体のメンテナンスの時とと思ってください。また、新たな目標や趣味などを考える時です。これからの老後や、自身の身の在り方について考え直しましょう。気持ちちは若くても、六十代に入ると体の動きが悪くなり、気がつくとき記憶力も落ちてきます。七十代は少し周りを見る余裕も出てくる時期です。ただし、昔と同じような時間の使い方ではいけません。頑固にならず、素直な気持ちで冷静に物事を判断することが重要です。

さて、人間にとって最も重要なことは何でしょうか。それは、今日一日を大切に生きることです。残された人生を悔いなく生きることが、私たちがすべきことなのです。人は前世のカルマを背負って生まれ落ちます。生きていくうちに、そのカルマをすべて浄化することはできません。私たちは生きながらにカルマを生み続けているからです。そして、そのカルマは来世へ受け継がれていきます。因縁を浄化し、カルマを軽くするには善き行いと善き言葉が大切です。このカルマを浄化することが、成仏につながります。

成仏とは悟りへと至ることです。これは仏教の根本ではありますが、私たちが、私たちにとって、この世は修行の場なのです。徳を積むことは、この世でしかできません。仏教は、ゆっくり穏やかに生き、自分のことだけではなく、他の人々、そして大自然に対しても感謝の心を持って接することが大切な修行であると説きます。常にイライラしたり、我を通したりしては、幸せな人生にはなりません。小さな悪の一滴も、それが集まれば大きな悪となってしまいます。善なる一滴を積み重ね、大きな功徳をなしましょう。

お盆も終わり、来月は彼岸の月です。毎年お話ししていますが、彼岸とは悟りの世界です。すなわち、我々が目指す世界なのです。年齢を重ねると、どうしても頑固になったり、感謝することを忘れてしまったりします。怒りや欲、執着に囚われた生き方は、カルマを積み重ねるだけです。それではカルマを増やすだけです。もっと優しい心を保ち、穏やかに生きることです。心が安らぐような行動と言葉を実践することで、真の幸福が訪れます。病になると、人は苦しみますが、それも乗り越えるべき修行なのかもしれません。そのような時ほど、仏は私たちに力を与えてくださいます。皆さんは観音様との御縁をもちました。観音様のお力とは、このような時に私たちをお救いくださる力なのです。一心に祈ることが肝心です。

先月の施餓鬼供養護摩は、ご先祖様や故人に対しての感謝と功徳の祈りとなったことと思います。供養は決して自己満足ではありません。心がなければ、単なる儀式になってしまいます。お彼岸も同じことです。心より感謝して、成仏を祈ること。これが基本です。先祖がいるからこそ今があるのです。たとえ、顔も名前も知らなくとも、自身の命があるということは紛れもなく先祖のおかげです。命は一人では生まれてきません。親孝行や先祖への回向を忘れてはならないのです。お盆もお彼岸もご先祖様、そしてそれに連なる私たち自身のための功徳の行なのです。毎日のお祈りとともに、懺悔の修行を行ってください。そうすればきっと幸せな人生を送ることができます。苦しい時は、いつでも私たちにご相談ください。観音様は私たちを必ずお救いくださります。

二、無縁仏と幽霊

少子化はもはや止められない現実となる中で、「墓じまい」という言葉が広まっています。これは、日本人の墓離れということではなく、墓に対する関心の高まりを示しています。さらに、子どものいない家庭や孤独死の増加から無縁仏となる仏は確実に増えています。無縁仏とは吊うもののいない者を指します。死後だれにも弔われない者は世を彷徨い、救いを求め、幽霊となる。そんな話は昔からあります。幽霊という足がなく、白装束を着た長い髪の女性を思い浮かべるのではないのでしょうか？このイメージが出来上がったのは江戸時代のことです。円山応挙による幽霊画に端を発していると言われます。

では、幽霊や靈魂はどのように捉えられてきたのかを歴史を遡って見ていきましょう。古代日本において

死者の靈魂は災禍をもたらす「荒御魂」と、守護してくださる「和御魂」の側面があるとされました。荒ぶる死者の魂を鎮め、祖霊として守護いただくために供養を行うのです。また、かつて殯もがりと呼ばれる風習もありました。亡骸をすぐに埋葬するのではなく安置して人々嘆き悲しむことで死者を慰めたのです。これは飛鳥時代まで天皇などの高位の身分において行われたものです。四十九日までお骨を安置するのに似ていますが、殯が死者への弔いに主眼がおかれる点で異なります。

この「荒御魂」信仰は御霊信仰につながります。日本で最も有名な怨霊では菅原道真がいます。生前の非業の死から怨霊となり多くの禍を都にもたらしたとされます。そのため天満大自在天神として天満宮にて祀られ、現在も天神様の呼び名で多くの信仰を受けています。他にも平将門を祀る神田明神も長く信仰される一方で、未だに将門の首塚の伝説が残るなど荒御魂の色合いを濃く残しております。

一方で、幽霊として死者が人の姿を取るようになったのはさらに後になります。これは鎌倉時代の東大寺修二会での「青衣の女人」が有名です。集慶という僧侶が過去帳の奉読をしていると眼の前に青衣の女性が現れ「なぜ私の名前を読みとばしたのか」と問い詰めた。とっさに集慶は「青衣の女人」と読み上げると女性が消えていた。それ以降現在に至るまで過去帳での読み上げが続いています。過去帳の奉読からわかるように、亡くなられた方の名前を呼ぶというのは重要な供養法になります。

室町時代から戦国の世において幽霊は世阿弥の大成した「夢幻能」に現れます。ここでは源氏に敗れた平家の武将を中心に僧侶による弔いの話が描かれます。この時代には『太平記』などでも怨霊の話が取り上げられますが、これも当時の室町幕府に対峙した者たちの怨念の浄化が目的に含まれていることが見て取れます。このように、戦国時代まではこの世に恨みや未練を残した公家や武士における祟りを恐れ、供養し、時には神として祀ることで福となす信仰が中心でありました。これには戦乱の絶えない世であったことも影響していることでしょう。

一方で戦国の世も終わり、平和な江戸時代になると幽霊のイメージは一変します。鶴屋南北『東海道四谷怪談』を始めとした怪談話が流行します。世にいう「百物語」や日本三大怪談と呼ばれるお岩、お菊、お露の怪談などが有名ですね。また、幽霊画もこの頃に現れ、様々な絵師が幽霊を描くようになります。ただ、幽霊画は亡くなった女性の供養や魔除けのために描かれたそうです。

そして、現代にいたって幽霊は一種の怪異として恐れられるというよりは、消費される対象になってしまっているようにも感じられます。それはメディアでの心靈特集にも見て取れるでしょう。亡くなられた方々への敬意を想起させるための方便として語るのは結構ですが、ただ面白がるだけでは悲しいものです。ここまで見えてきたように幽霊として現れるものは、私たち生者へ伝えたいメッセージを宿したものであるという共通項があります。それは時として恨みであったり、救いを求めるもの、さらには私たちを守るため。いずれにせよ、私たちは亡くなられていった方々の上に今という瞬間を生きています。

そして、青衣の女人が求めたのは「名前を呼ぶこと」すなわち「私のことを思い出して」というメッセージでした。お盆の供養にせよお彼岸にせよ、私たちは今一度自分の立つこの地平を思い返し、過去の聖霊たちを顧みて、名前を呼んで思い出し、佛前にて手を合わせて回向することを忘れぬようにいたしましょう。

合掌

南無日光妙法蓮華經

*八月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（八月七日〜九月六日） 一年通してのラッキーカーラーは黄色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

八月のラッキーカーラー

青 白 金

暗剣殺

南西

五黄殺

北東

【お知らせ】

- | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|------------------|----------|-------------------------------|---------------|-----------------------|
| ① | 九月の勉強会の日程 | 九月 | 一日（火） | 五日（土） | 六日（日） | 正午より |
| ② | 馬頭観音動物供養 | 九月 | 五日（土） | 午前十時半より | 終了後に勉強会を行います。 | |
| ③ | 不空羅索観音大祭 | 九月 | 二十七日（日） | 午前十時半・午後二時半より | | |
| ④ | 年に一度の観音様のご縁日となります。今年是不空羅索悔過会を厳修いたします。 | 十月 | 十二日（月・祝） | 午前十時半より | | |
| ⑤ | 愛染明王護摩供養 | 十月 | 十二日（月・祝） | 午前十時半より | | |
| ⑥ | 地震災害除護摩供養 | 十一月 | 二十二日（日） | 午前十時半より | | |
| ⑦ | 仏像彫刻教室 | 八月 | 九日（日） | 九月十三日（日） | 正午より | 絵画教室 九月六日（日）勉強会後 本堂にて |
| | ※見学・体験もできますのでご興味のある方はぜひお越しくださいませ。 | 八月九日（日）・九月二十日（日） | 塩川滝 午前七時 | 八月二十三日（日） | 夕日の滝 午前六時 | |
| | 滝行の予定 | 九月二十八日（月） | 牧馬大滝にて | ※それぞれの日程において参加希望の方はご連絡くださいませ。 | | |